

『経済研究所所報』の創刊にあたって

経済研究所長 水野伸昭

愛知学院大学経済研究所は2020年4月に設立されました。新型コロナウイルス感染症による大きな荒波に巻き込まれる中での船出となりましたが、何とか初年度を乗り切り、ここに『経済研究所所報』を創刊します。

本学における経済学の教育や研究に関する歴史を振り返ります。2013年度、経済学の知識を幅広く学び、その実践的応用によって新しい課題を分析し、課題解決のための適切な方法を考える学問的基礎を備えた社会人を養成するとともに、豊かな経済社会の実現に寄与する社会人を育成することを目的として、経済学部が新設されました。次に2017年度、地域経済社会のグローバル経済への対応という現代的ニーズに応えるため、高度な経済学の専門的知識と問題解決能力を身につけて、社会で活躍できる人財の養成を目的として、大学院経済学研究科が開設されました。そして2020年度、経済に関わる様々な問題に対して、先端的な研究を推進して経済学の学術的な発展に寄与するとともに、グローバルな視点から政策提言を行うことにより地域の経済や産業に貢献することを目的として、経済研究所が設立されました。これで本学における経済学の教育や研究に関わる機関がすべて揃いました。このような経緯から分かるように、経済研究所の設立により、経済学部の歴代の関係者が学部を開設して以来、抱き続けてきた長年の夢がかなったと言えます。

2019年に中国から始まった新型コロナウイルス感染症は、グローバリズムの波に乗り、2020年には地球の隅々にまで広がりました。この今世紀最大のパンデミックは、私たちの社会に大きな変化をもたらしました。たとえば、日常生活ではマスクの着用とソーシャルディスタンス、職場では在宅でのテレワーク、学校ではオンライン授業など、これまで底流にあったデジタル化が一気に加速しました。また旅行、ホテル、飲食のような人と接するサービス業が縮小する中、オンライン・ショッピングの急増やこれまでのICTをベースにしたデジタルトランスフォーメーションの進展など、新しいライフスタイルに合わせたビジネスに重点が移り、また新ビジネスも次々登場しています。このように日本の経済をめぐる環境は、新旧ビジネスの盛衰もたらす産業構造の転換、一極集中型から分散ネットワーク型への都市の変化、リアルからバーチャルへの人々の行動変容など、ニューノーマルと呼ばれる大きな変化の中にあります。また世界を見ると、米中の対立、貧富の格差拡大、グローバル化の明暗など、21世紀初頭の構造変化に伴って生じた問題が、コロナ禍により先鋭化しました。経済学の使命は言うまでもなく、このように大きく変わる社会の荒波の中で、最も適切な羅針盤を提供することです。

『経済研究所所報』は、このように世界経済が不可逆的な変化のとば口に立つ中で誕生しました。経済研究所では、これまでになく深く重い経済学の使命を果たすため、その成果を広く社会に発信していきます。